

第6学年4組 社会科学学習指導案

1 単元 近代国家を目ざして

2 目標

- 日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことについて理解するとともに、絵画・写真資料や統計、年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけることができるようにする。
- 条約改正に向けた、出来事や人物の行動を多角的に捉える力やその時代の社会にみられる課題について自分の考えをもち、説明したり、議論したりすることができるようにする。
- 条約改正に向けた取り組みについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かすことができるようにする。

3 単元計画（9時間） 単元における自己選択・自己決定の場

段階	配時	学習活動	手立て
見 通 す	1/9 2/9 3/9	<p>1 年代ごとに各出来事や人物の概略をおさえ、なぜ、不平等条約を改正できたのかを予想し、学習問題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の流れに沿って、各事象(大日本帝国憲法、第1回帝国議会、日清戦争など)や人物(世界で活躍する日本人)の概略を確認し、単元の学習問題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(学習問題) 不平等条約は、どのようにして改正されたのだろうか。 また、不平等条約改正後、日本と世界の国々との関係はどのように変わっていったのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不平等条約は、どのようにして改正されたのかを予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年表をもとに、国際的地位の変化への関心を高め、学習問題をつくることができるようにするために、「なぜ、条約改正ができたのだろうか」と問い、焦点化できるようにする。
行 う	4/9 5/9 6/9 本時	<p>2 不平等条約改正に至った事象を調べ、考えをまとめ、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事象同士の因果関係を結びつけ、不平等条約改正に至った事象について調べ、同じ事象同士で話し合い、自分の考えを見直す。 ○ 話し合いをもとに、改めて、事象同士を関連付け、不平等条約改正に至った歴史的背景について調べ、考えをまとめる。 <p>3 不平等条約改正に至った理由を全体で交流し、自分の考えを再考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不平等条約改正に至った事象について自分の考えを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えと同じ人や違う人と交流する。 ○ 交流を受けて、自分の考えを見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の事象同士を結び付け、視覚的に分かりやすくするために、シンキングツールを使い、自分の考えを見直すことができるようにする。(ICT) ○ 「自分の考え」が課題に対する結論付けになっているのかを確かめることができるように、学習者用端末を使い、可視化できるようにする。(ICT)
	7/9	<p>4 くらしと社会の変化についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不平等条約改正後、日本の産業や科学がどのように発展し、日本と世界の国々との関係がどのように変わっていったのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発展した産業や科学の写真を提示し、変化の様子を可視化できるようにする。
振 り 返 る	8/9 9/9	<p>5 これまでの学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習してきた条約改正が達成されるまでの年表をもとに、まとめ、確かめる。 ○ 条約改正についてまとめたことをもとに、学習問題に対する結論を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年表を提示することで、学習内容を時系列に整理する。

4 主眼

事象の相互関係に着目し、二つの戦争や大日本帝国憲法の制定、帝国議会の開設、医学の分野で活躍した日本人等の事象同士を関連付け、条約改正ができた理由をまとめることができるようにする。

5 本時過程 **自己選択・自己決定の場(つなぎタイム)**

段階	学習活動・予想される児童の反応	手立て (○) と評価 (◇)	配時
導入	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。 なぜ、不平等条約を改正できたのかを交流し自分の考えを見直そう	○ 不平等条約改正に至るまでの事象を関連づけることができるようにするために、年表を見て振り返る。	5
展開	<p>2 不平等条約改正に至った理由について自分の考えを交流し自分の考えを見直す。</p> <p>○ 自分の考えを見直すために、自らの課題に応じて、学習内容を選択し、交流する。 【内容選択】</p> <p style="text-align: center;">なぜ、不平等条約を改正できたのか</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>根拠</p> <p>憲法が 変わ り、政 治が 世界 から 認め られ たか ら。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>議会制 度が、 世界 から 認め られ たか ら。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>戦争に 勝利 し、国 力が 認め られ たか ら。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>世界で 活躍 する 日本 人が 認め られ たか ら。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>内容</p> <p>大日本 帝国 憲法</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>第1回 帝国 議会</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>日清 戦争</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>世界 で活 躍す る日 本人</p> </div> </div> <p>【個別と協働の一体的充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争が不平等条約改正に大きく影響していると考えていたが、大日本帝国憲法も関係していることに気づき、大日本帝国憲法グループに聞きに行く。 ・友達と協力して話し合い、第一回帝国議会が不平等条約改正に大きく影響している考えたため、さらに、帝国議会が行われた背景について調べ、個別で見直しをする。 	<p>○ 「自分の考え」が課題に対しての結論付けになっているのかを確かめることができるようにするために、事象ごとにグループをつくり、グループごとの考えを可視化できるようにする。(ICT)</p>	10
	3 不平等条約改正ができた理由について事象を関連させ、自分の考えを交流する。	○ 自分の考えを付加・修正・強化できるようにするために、全体交流する。	15
	<p>私は、不平等条約改正には、日清戦争に勝利し、国力に自信をもち、外国との交渉に進むことができたと考えていた。また、戦争だけではなく、帝国議会が行われたことで、日本の政治が整えられ、世界が認めた。これにより、日本の政治が整えられたことも、不平等条約改正に大きな影響を与えたと考えた。</p>	◇ 自分たちの考えを見直すことができ、自分の考えに付加・修正・強化して説明できるようにしている。 【思・判・表】	
終末	4 学習を振り返る。 友達と自分の考えを交流することができたので、自分の考えに付け加えをすることができた。次の学習では、友達が考えた内容も詳しく調べたいと思った。	○ 自分の学びについて評価することができるようにするために、振り返りの視点を提示する。	5